

市章（告示 昭和17年10月1日）



この章は富田林の頭文字「富」を「ト」とし、「ト」を三つ重ねてトミと読み各々尖端が矢のようにされていることは、広く発展することを意味しています。

市の木と市の花（制定 昭和50年6月1日）

市の木「くすのき」



くすのきは、常緑樹で成長が盛んなうえに寿命も長く、樹木のなかでも最大の木で、古い歴史と伝統で育ってきた本市のなかで広く市民に親しまれています。

その雄姿は、緑と太陽につつまれた教育文化都市をめざす本市を象徴するにふさわしい木です。

市の花「つつじ」



つつじは、昔から日本に最も多く産し、花が大衆的で、種類も多く色彩感にあふれ、ひとびとに観賞されています。

その寄り添って咲く花の姿は、市民一人ひとりの協力と連帯感を象徴するにふさわしい花です。